【熊本公徳会賞】

# 優しさの地　熊本

芦北町立湯浦中学校　２年　東田　翔人

僕は県外からの転校生です。中学に入る時に熊本県民になった僕が、大好きな熊本について書きます。これまで熊本は、自然豊かなところという印象しかありませんでした。しかし、実際暮らしてみると、互いの事を心から信頼し、豪雨災害を受けた地域として、人々の繋がりがとても強く、「優しさの地　熊本」であると感じています。

僕は、昔からよく物を落としたり、無くしたりします。以前は、「またやってしまった。」と諦めることが多かったのですが、熊本に住んで驚いたのが、その無くしたものが必ずと言っていいほど手元に返ってくるのです。先日も、学校の帰り道に、帽子を落とした私を追いかけて届けて下さった地域の方がいました。別の日には、家に帰って、「無い」と気付いたものが、朝から通学路の目立つところに分かるように丁寧に掛けてありました。当たり前のことかもしれませんが、僕は熊本県民の優しさに驚きました。

また、町を歩いていると、すれ違う人が目を見て挨拶してくれることに驚きました。以前、「日本には挨拶を交わす町とそうでない町がある。」ということをテレビで知りました。僕の熊本での日常は、携帯電話の画面を見ながら歩いている人とのすれ違いではなく、一言声をかけながら挨拶をしてくれる人との交流が盛んです。毎日のように温かい気持ちになるし、僕も、熊本県民として、これが当たり前の姿として実行できる人になりたいです。

さらに、県外から来た僕は学校でも地域でも、すぐに受け入れてもらいました。引っ越しや転校をしている人にとっては、ここが一番不安なところなので、僕はとても安心しました。一緒に学校に行き、周辺の事を細かく教えてくれる仲間にも出会いました。そのおかげで、この地が安心できる場所なんだ、と身を持って感じました。

近年、熊本県民は、熊本地震や豪雨災害を経験しています。災害にも負けず、復興に向けた高い志で、助け合い、励まし合うすごさもありました。熊本に移り住む前、芦北の親戚の豪雨災害のボランティアに行きました。私が県外から急いで駆け付けた時にはすでに、被災しながらも互いに助け合い、復興に向けた動きが始まっていました。親戚の家の片づけは、周りの家の人が十数人来ていて、ほぼ終わっていたのです。自分のことだけでなく、地域一丸となって活動できるパワーに、本当に驚きました。その後時間が経っても、地域の方は自分たちにできることを考え、豪雨被害を受けた地域に花火をあげたり、地元の食材を使い炊き出しを行っていたり、継続して助け合い、励まし合って共に暮らしている事も知りました。

そんな熊本が大好きで、僕も優しさを持ち、共に頑張る熊本県民の一人として、もっともっと熊本の発展に貢献したいです。